

1 . N P O 法人フルル花と福祉の地域応援ネット

【事業名称】 市民まつり支援事業（秋のハロウィンまつり）

【申請内容】

河内長野市文化振興財団と協力し、ハロウィンまつりでランタン作りに使うカボチャの栽培を実施するため、農地約 150 坪に団体会員がカボチャの種を蒔き、水遣り、雑草の刈り取り、肥料まきなどをして収穫までを行う事業として申請がありました。

【審査評価】

ハロウィンまつりへのカボチャの提供や、休耕田の活用などは、公益性のある事業であると評価し、補助金交付を決定しました。

【補助額】 31,000 円

【事業実績】

ハロウィンまつりの「カボチャを使ったランタン作り及びペインティング教室」に提供するため、カボチャ 50 個の収穫を目標に、苗 50 ポットの植え付けをしたものの、栽培途中でイノシシの出没により根が掘り起こされてしまいました。蔓も切断され被害は大きく、修復活動に努めたものの、目標個数を大幅に下回る結果となってしまいました。しかし、イベント当日のランタンづくりと、小型のカボチャを利用したペインティング教室には、たくさんの親子連れが参加し、子どもたちが熱中してカボチャに絵を描く姿が見られました。会員のボランティアも指導員として参加し、待ち列ができるほどの盛況でした。なお、カボチャが不足したため、その補完品として別に育てた千成瓢箪を利用しました。

参加者が作ったランタンは、当日ラプリーホールに展示されました。日没後、カボチャが点灯されて施設内で幻想的な雰囲気が体験できました。完成後のカボチャは、翌日に行われるコンサートの終了後に参加者に引き渡されました。

当初の目標としたカボチャ作りとハロウィンまつりへの参加を通して、市民とボランティアのふれあい、子どもたちがたのしめるイベントの盛り上げに寄与できました。

【今後の展開】

従来から「植物を通して、大人も子どもも楽しめる事業」を目指しているため、今後、「カボチャのランタン作り」は、団体の活動拠点である「府立花の文化園」で、カボチャの播種から収穫およびランタンづくりの開催まで行う予定にしています。

カボチャの栽培は、ランタン用カボチャのほかに、ジャンボカボチャ、オモチャカボチャ等、約 10 種類のカボチャを栽培し、イベントを盛り上げていく予定です。

【事業報告】

事業報告会では、当団体が取り組んだ事業について、「今後、ハロウィンまつりが活発に行われるよう事業の発展を期待する。」「思わぬイノシシの出現にも関わらず事業を完了された努力が伝わってきました。」「アクシデントとの戦い、資金繰りなどいずれも大変なようですが、スタッフの方々の気概を感じました。」など、市民の方から感想がありました。

【記録写真】



## 2. はぐくらぶ

【事業名称】 みんなで前進・はぐくらぶ～河内長野にはステキがいっぱい

### 【申請内容】

子どものスポーツを通して知り合った親が集まって、子どもの生活・親の関わりの中での気づきを情報交換し、河内長野の自然や施設を利用して、親子のふれあい・仲間づくりをしていながら、情報発信を行う事業として申請がありました。

### 【審査評価】

地域で若い世代の担い手不足が叫ばれる中、若い世代自身が交流の場づくりを手がけることで、親子のふれあい・仲間づくりに繋げるという取組みが評価されました。今後は、団体HPや事業パンフレットを作成して、広く会員を獲得するよう情報発信を重点的に行ってほしいと要望しました。市民公益活動として、より広域に事業が広がることを期待します。

【補助額】 93,000 円

### 【事業実績】

今回の市民公益活動支援補助金を受けて、野外活動「自然の中でふれあい交流会」と、金銭教育「親子で挑戦！買い物ゲーム」を実施しました。

野外活動では、16人が参加し、親子で準備・火おこし・調理・後片付けを通し、自分のできること・手伝えること・危険なことを実際に体験し、自然の大切さ・自然の危険性・仲間との協力・相手のために役立つことを学びました。

金銭教育では、14人が参加し、物を大切に扱う・信頼されるようになる・仲間を思いやることを学び、金銭教育ビデオを見て、親子で意見交換をしました。子どもたちは、おこづかい帳のつけ方を学び、ゲームを通して計画的にお金を使うことが理解できました。

他にも、市のイベントやフリーマーケットに参加し、一部の地域にポスティング、市民に事業内容・事業参加をPRしました。特に、募集チラシは、河内長野市市民公益活動支援センター「るーぷらざ」にアドバイスをもらって作成し、市役所・るーぷらざ・キックスなどに設置・掲示しました。メールや電話での問い合わせもありました。

参加した子どもたちは、成長や自信をつける機会を得ました。大人は、単に手伝うのではなく、子どもの頑張りを見守り、親以外の大人が声をかけたり（ほめる・注意する）することでも、いろいろな価値観が子どもの成長に必要なことを再確認できました。初めて参加した方には、はぐくまの活動を知ってもらえる機会となりました。

#### 【今後の展開】

参加者を募るため、チラシをポスティングしたり直接声かけを行いました。興味を示す方はいるものの、参加には至りませんでした。今後は、周知方法を工夫し、開催時期なども再検討して、参加人数の確保に努めていきたいと考えています。

また、活動の情報発信やホームページの作成については、パソコン教室やパソコンボランティア「らくがき」による勉強会に参加し、基本的知識の理解に努めています。

#### 【事業報告】

報告会では、参加者が少ないことに対する意見が多く出ました。「他のボランティア団体とネットワークをつくったり、幼稚園、学校、地域の子ども会と連携してはどうか。」「情報発信の工夫や広報活動に力を入れて根気よく続けてほしい。」など応援の声が多く、「子どもの成長と向き合い、人と人がつながって生きることの大切さを広められているようで心が和みました。未来を背負う子どもたちのためにも頑張ってください。」「危機管理、傷害保険などの導入。指導者としての研修や勉強が必要ではないか。」との意見もありました。

#### 【記録写真】



### 3 . 菜園クラブ

【事業名称】 蕎麦打ちを通じて地産地消の推進と地域社会への貢献

#### 【申請内容】

蕎麦打ちを通じて地元野菜を紹介し、地産地消を進めながら、野菜作りと蕎麦愛好者を増やし、さらに市内の休耕田（畑）を有効利用し、農業の活性化と町おこし運動（河内そばの普及）の一助になればという思いで補助金を申請しました。

#### 【審査評価】

地産地消や休耕田の有効利用の観点から、地域で蕎麦の栽培を行い、地域産の野菜も使いながら、福祉施設に入所されている方に蕎麦を提供するという取組みは、公益性のある事業であると評価し、補助金交付を決定しました。

【補助決算額】 166,000 円（自主事業支援コース）

#### 【事業実績】

福祉施設の入所者を招待し、蕎麦打ち体験と蕎麦と寄せ揚げの会食を行いました。子どもたちから「美味しかった」「有難うございました」と声をかけてもらい、交流も深めることができました。福祉施設の入所者と共同で栽培した野菜を使った料理も提供しました。

料理講習会や蕎麦打ち会にはのべ 188 人が参加しました。これらの活動の結果、会員の中から、家庭菜園を始める人が出たり、農業で身を立てていこうとする若者も育ちつつあります。また、会員が意欲を持って取り組める体制ができ、蕎麦打ちの有段者も倍増しました。

#### 【今後の展開】

定例そば打ち会に入所者を招待して指導と会食を実施しましたが、準備に十分な配慮が足りず反省する面もありました。今後の実施については、定例そば打ち会と、そば打ち指導と会食を別々の日に開催するなどを検討していきます。

また、次回の高野街道まつり（毎年 10 月開催）では、目玉の一つとして蕎麦打ちの出展参加を依頼されています。



【事業報告】

報告会では、「事業目的・内容がよくわかり、新規加入の方も入りやすく、参加人数も多い。ボランティア活動も多方面・多事業をこなされている。」「蕎麦づくりをされる農家が出てほしい。」との意見がありました。

【記録写真】

